

単位	A 国際単位	D <sub>3</sub> 国際単位	E <sup>*2</sup> mg	K <sub>3</sub> mg	B <sub>1</sub> <sup>*4</sup> mg	B <sub>2</sub> mg	B <sub>6</sub> mg	B <sub>12</sub> <sup>*5</sup> mg	ナイアシン mg	パントテン酸 mg	葉酸 mg	ビオチン <sup>*6</sup> mg	C <sup>*7</sup> mg	コリン mg	ヘータカチン <sup>*8</sup> mg
犬	15,000 ~ 25,000	780 ~ 1,300	100 ~ 250	1 ~ 2	4 ~ 8	13 ~ 22	6 ~ 12	0.03 ~ 0.05	50 ~ 170	30 ~ 60	0.6 ~ 2.0	0.25 ~ 0.80	100 ~ 200	1,300 ~ 2,700	30 ~ 50
猫	15,000 ~ 40,000 <sup>*1</sup>	780 ~ 1,300	150 ~ 300	1 ~ 2 <sup>*3</sup>	5 ~ 10	22 ~ 27	11 ~ 14	0.03 ~ 0.10	50 ~ 170	30 ~ 60	0.6 ~ 2.0	0.25 ~ 0.80	100 ~ 200	1,300 ~ 2,700	30 ~ 50

推奨量は、ドライフード1kgあたりで表示されています。また、餌中4,000kcalME/kg乾物を標準としています。

エネルギー含量が12.5%以上もしくは、エネルギーを制限した推奨量を給餌している餌は、それに応じてビタミン添加量を調整してください。

\*1 猫用フードには必要不可欠です。

\*2 餌中のPUFA含量1%ごとに少なくとも5mg/kgドライフードの増量を推奨します。

\*3 長期間与える場合で魚を25%以上含んでいる猫用缶詰に特に必要とします。

\*4 犬用ドライフード1kgあたり18mgを上限として。また、猫にたいして35mg/kgの添加が食欲促進の改善を手助けする働きがあると報告されています。

\*5 :ドライフード1kgあたり0.8mgを上限として、増加させると肝機能をサポートする役割があります。

野菜などの植物性の餌はビタミン<sub>12</sub>が不足しがちなので、増量することを推奨します。

\*6 高用量 (2mg/日) の添加は、高脂肪フードや、また猫や犬の皮膚や毛質改善としても推奨されます。

また、糖尿病の犬において肝臓からブドウ糖を排出するのを防ぐ働きがあります。

\*7 :ビタミンCリン酸塩として

\*8 犬や猫の免疫機能としての抗酸化能力をサポートするのに推奨します。また、繁殖機能にも重要なビタミンです。